

カミ・ホトケ・オタク鼎談

輪廻転生はオカルトか!?

いのフェス

キリスト教の教団、教会、企業、同人サークルや個人が教派を超えて一堂に会して出店するイベント「いのり☆フェスティバル2012」が9月29日、東京・台東区の東京

卸売センターで開催された。昨年に続いて2回目。特別企画「カミとホトケと、時々、オタク」では、「オタキング」として知られる評論家の岡田斗

トで改革派長老主義の波勢邦生氏、広島県曹洞宗普門寺の吉村昇洋副住職が鼎談。波勢氏がカトリック、プロテスタント、

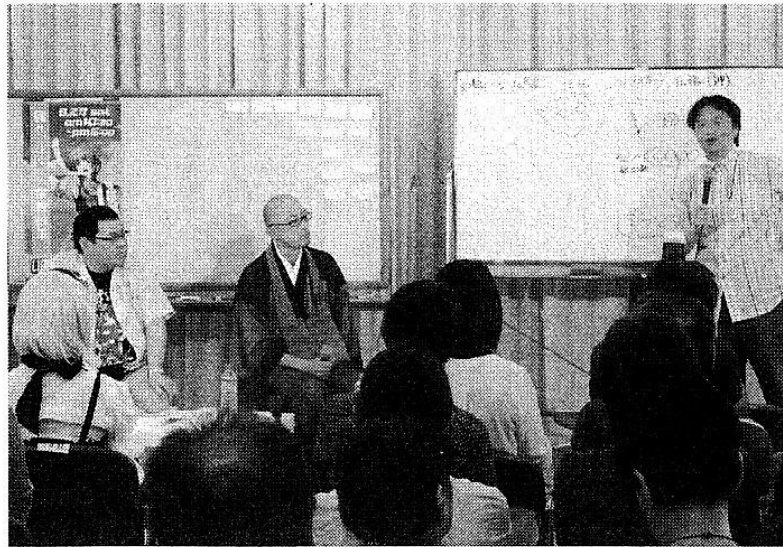
オーストドクスの違いを説明すると岡田氏は、「プロテスタントの出現というのは、マジンガーZに対するアンチテーゼとしてのガンダムのようなものなんですね」などとロボットアニメの違いに例え、笑いを誘った。

話題は宗教マンガや仏像ブームなどで、爆笑の中進行。しかし後半、話は神の存在理由や悟りとは何かといった根源的なものにまで及び、特定の宗教にコミットしているわけではない岡田氏の「神様ってリアルに存在するんですか? たとえ話ですか?」キリスト教はよくできた道徳律だと

は思うんですけど」だとしたら中心に神が『事実存在する』必要はなくてもいいのではないかという疑問や「輪廻転生っていうのはオカルトでしょう? 最初の人類は百万人くらいだったんだから、残り69億(現在の世界人口)の魂はどこから持ってきてなくちゃいけないでしょう?」といった、素朴かつきわどい発言も交え、聴衆の興味を惹きつけていた。

岡田氏は、東日本大震災の後で宗教の価値が見直されているのは、「善意を核に社会を構築できないのかとみんなが考えた」ためで、経済的合理性への反旗だったのではないかと分析した。

他の企画でのゲストはシンガーソングライターMingwa氏や、かつて歌手・久保田早紀として活躍していた教会音楽家の久米小百合氏。多数の出店ブースではマンガや似顔絵、お菓子の販売のほか、キリスト教式葬儀を紹介する葬儀社もあった。



左から波勢氏、吉村氏、岡田氏

今回のポスターのイラストも「萌え系」で、幅広い年代の参加者が見られた。